

令和2年度 長崎市自然環境調査報告書：昆虫類

長崎市自然環境調査委員 田 中 清

今年は、三重田湿地と黒崎永田湿地（自然公園）を調査しました。その結果について、要点をお知らせします。

1 調査期間及び方法

期間は令和2年1月～12月（毎月）です。方法は見つけ取り、スウィーピング法、叩き網法、石起こし、灯火採集、PT法（フィットホールトラップ）などを行ないました。なお、調査は深川元太郎氏（長崎市自然環境調査員）と共同で実施しました。

2 調査結果及び考察

それぞれの調査地において、筆者が確認した、特定種（絶滅が危惧される種）、特筆すべき種、外来種のものにしばって説明し、現状や問題点について示します。

(1) 黒崎永田湿地

①位置・現状

黒崎永田湿地自然公園（長崎市永田町）は、東側から北側にかけて国道202号に接し、西側の海岸はコンクリートの堤防で締め切られています。西側から南側にかけては民家があります。

北側には駐車場とトイレ、健康遊具が設置された小広場があります。湿地内には小川が流れており、木製の遊歩道が整備されています。

湿地内にはヨシ（アシ）とガマを主体とする植生が大部分を占めています（図1）。



図1 黒崎永田湿地遠景

①特定種

長崎市レッドデータリストにある特定種は、下記の9種（7種は水生昆虫）を確認しました。

ベニイトトンボ(VU) コフキヒメイトトンボ(GR) ミズカマキリ(NT) コオイムシ(NT)
エサキアメンボ(VU) オオキンカメモシ(NT) コガタノゲンゴロウ(NT) コカブトムシ(VU)
ゲンジボタル(NT)



図2 ベニイトトンボ



図3 コフキヒメイトトンボ



図4 ミズカマキリ



図5 コカブトムシ

②特筆すべき種

下記の2種を確認しました。

ナガチャマダラカスミカメ（ハマヒサカキにみられる種ですが、まだ学名がついていません。）

フタモンクビナガゴミムシ（河原などにみられるゴミムシです。）



図6 フタモンクビナガゴミムシ

③迷蝶

アオタテハモドキを西側海岸付近と駐車場横の空き地で計3頭確認しました。

④外来種

長崎市外来種リストにある種は下記の3種を確認しました。特に問題になる種はいませんでした。

セイタカアワダチソウ
ヒゲナガアブラムシ
ラミーカミキリ
タテハモドキ



図7 セイタカアワダチソウ
ヒゲナガアブラムシ



図8 タテハモドキ

⑤結果と問題点

大型のマゴイのほか、特定外来生物に指定されているアメリカザリガニ、ウシガエルが見られます。特にアメリカザリガニは生息密度が非常に高いようで、水網で泥をひとすくいするだけで、幼い個体が10頭前後も採集されます。外来種による水生昆虫の捕食圧が高いようで、自然公園として設置された頃と比較すると、特定種に限らず一般種でも確認できる数と種類が激減しており、トンボ類では今回は確認できなかった種もありました。

湿地の乾燥化が進行しており、駐車場がある北側で顕著です。また、自然公園としての維持・管理や安全面から、晩秋から冬期に遊歩道周辺や湿地内の刈り込みが行われています。しかし、刈られた植物のすべてが撤去されており、乾燥化に拍車をかけ、昆虫の生息や越冬に必要な環境を壊しています。できれば刈った植物を湿地に放置して欲しいものです。

(2) 三重田湿地

①現状・位置

三重田湿地（長崎市三重田町）の両側（南北）は丘陵（森林）に挟まれています。湿地内の小川（両岸はコンクリート）は海に注いでいます。海岸の一部に波消しブロックがありますが、大部分は自然の状態が残っています。また、民家や国道、市道から一定の距離があり、外灯がないので夜間は暗い状態が保たれています。さらに、林、林縁、水辺、草原、河口、海岸と多様環境（植生）が見られ、道は未舗装（泥道）です。湿地内は黒崎永田湿地より遷移が進んでおり、樹木や湿地性草本の種類と数が多くなっています（図9）。



図9 三重田湿地遠景

①特定種

長崎市レッドデータリストにある特定種は、下記の13種を確認しました。

ネアカヨシヤンマ (CR) ヒメアカネ (VU) マイコアカネ (NT) コオイムシ (NT)
ソデフリカスミカメ (NT) オオキンカメムシ (NT) コガタノゲンゴロウ (NT) ヤマトタマムシ (NT)
ゲンジボタル (NT) ヘイケボタル (VU) ニホンホホビロコメツキモドキ (NT)、ツマキチョウ (NT)
クロツバメシジミ (VU)



図10 ソデフリカスミカメ



図11 コガタノゲンゴロウ



図12 ヤマトタマムシ



図13 ニホンホホビロコメツキモドキ

②特筆すべき種

一般種として6種をあげておきます。

アリヅカコオロギの一種（冬期に海岸付近にある朽木の中にすむアリの巣に多数見られました。）

マダラミズカメムシ（小型の水生カメムシで湿地や小川で確認しました。）

ナガチャマダラカスミカメ（黒崎永田湿地でも確認しました。）

フタモンクビナガゴミムシ（黒崎永田湿地でも確認しました。）

ミツノエンマコガネ（大型の糞虫ですが長崎市ではほとんど見られなくなっています。）

スジグロボタル（陸生ホタルの一種で、まだ三重田と西海市でしか発見されていません。）



図 14 アリヅカコオロギの一種



図 15 ミツノエンマコガネ



図 16 スジグロボタル



図 17 ルリウラナミシジミ

③迷蝶

以下の5種が確認されました。

ウスキシロチョウ ルリウラナミシジミ、

ヤクシマルリシジミ カバマダラ

アオタテハモドキ



図 18 カバマダラ



図 19 アオタテハモドキ

④外来種

以下の5種が確認されました。問題になる種はいませんが、タテハモドキは毎月観察され、三重田に定着している可能性が高いようです。

アオマツムシ セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ ヨツモンカメノコハムシ

ラミーカミキリ タテハモドキ

⑤結果と問題点

先に述べたように多様な自然環境が残存し、昆虫以外の外来動物が見られないため、多くの昆虫が生息していました。種類数は永田湿地の2倍ほどでした。しかし、次のような問題点もあります。タヌキとイノシシがおり、特にイノシシは調査中でも姿をみかけるほどです。さらに、湿地内に電化製品、家具、タイヤ、畳などが不法投棄されて放置されています。また、海岸は漂着ゴミに加え、釣り人などが捨てたと思われるゴミが散見されます。この湿地は、多くの所有者からなるそうで、保全や維持管理が難しいようです。

謝辞

本調査に同行し、採集器具を利用させていただいた深川元太郎氏と長崎西高校の長嶋哲也氏、カメムシ類の採集や同定にご協力いただいた安永智秀博士、そして、採集に協力させていただいた長崎西と長崎北の生物部のみなさんに心より感謝いたします。